

歴史と伝統文化のまち「成田」には、さまざまな分野で活躍した人や郷土の発展のために尽くした人がたくさんいます。先人たちの生き方からふるさと成田の歴史に触れ、未来へ大きく羽ばたく指標となれば幸いです。

第19回 いまざわじかい 今沢慈海

英才を認められる

今沢慈海は、明治15(1882)年3月24日、愛媛県新居郡中野村(現在の愛媛県西条市)に父清吾、母キンの六男として生まれた。幼名を市次郎といった。市次郎が小学4年生の時に父が亡くなり、その後、女手一つで育てられていた。母が熱心な信徒であったため、市次郎は近所の保国寺住職、横田慈教の元に預けられ、その養子となって僧として学び、一字をもらい慈海と改名した。

寺での修行を重ねながら、西条中学校(現在の愛媛県立西条高校)を卒業した慈海はその英才を認められ、熊本の第五高等学校に入学し、その後、東京帝国大学(現在の東京大学)文科大学哲学科に進学。明治41年7月には、同大学の大学院を修業した。

東京市の事務員となっていた慈海は大正2(1913)年2月、日比谷図書館勤務を命ぜられた。この時に慈海の生涯にわたる図書館との関わり合いが生まれたのである。

日本の図書館長のトップ、成田へ

大正3年12月に日比谷図書館長、翌年4月には東京市の全図書館を統括する日比谷図書館頭に命ぜられ、日本図書館協会の副会長に就任した。同10年、文部省図書館講習所の講師となり、20年間にわたり勤めた。その間に同協会の会長となり、同12年には専務理事の任に就き、以後約4年間、日本の図書館長の



左/明治時代の成田図書館(『成田の歴史アルバム』より)
右/現在の成田山仏教図書館(場所:田町)

明治15年~昭和43年(1882~1968)

愛媛県新居郡中野村(現在の愛媛県西条市)に生まれる。保国寺住職の養子となり、寺で修行を積み、慈海と改名する。その後、東京に出て東京帝国大学(現在の東京大学)で学び、東京市の事務員となる。昭和9年に成田中学校(現在の成田高校)校長に就任。後に成田図書館(現在の成田山仏教図書館)館長に就任した。



トップとして重責を担った。

こうした慈海の日本の図書館活動における貢献は、実務面のみならずその著作にも見られた。大正15年9月に出版された『図書館経営の理論及実際』は、世界各国の文献を調査し、さらに独創的な研究を加えたもので、権威ある文献として国内外から評価を受けた。

昭和6(1931)年3月、東京市を辞した後、成田図書館(現在の成田山仏教図書館)の館長を兼務していた第18世新勝寺貫首の荒木照定からの要請により、同9年5月から同15年4月までの6年間、成田中学校(現在の成田高校)の校長を勤めた。

成田中学校長退任後に成田山教学顧問に就任。昭和23年2月には成田山教育・文化・福祉財団理事長に、同年4月には成田図書館長に就任した。そして約20年にわたり、それぞれの事業発展に貢献を果たした。

図書館学の著書のほか、昭和33年には30年間にわたる仏教の研究の集大成『梵文典』を刊行すると、その偉業は称賛された。また、同39年には、かねてより収集していた郷土玩具を披露する場として「心のふるさと郷土玩具展」を成田図書館で開催。1,300点にのぼる郷土玩具は没後に成田山霊光館に寄贈された。

昭和43年12月31日、成田図書館の片隅にある自宅で86歳の生涯を閉じた。現在の成田山仏教図書館は、同63年に開館、改称したものである。

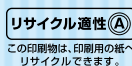
編集後記

声で家電の操作ができる家庭用スマートスピーカーの普及や、車の自動運転技術の発展など、私たちの生活環境の変化が伺えた2018年。このままいくと、未来の姿として描かれてきたSFの世界が数年後には実現しているかもしれません。一家に一体の人型ロボットや宇宙旅行など夢が広がりますよね。そして、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けてさらなる発展を遂げるであろう2019年。この1年でどれだけ夢に近づけるのか、今から楽しみです。

平成31年1月15日号 No.1379

成田市のホームページ

<https://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。